
tune † cross

天城 あいる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

t u n e t c r o s s

【Nコード】

N 7 6 0 0 L

【作者名】

天城 あいる

【あらすじ】

舞台は魔法が存在する世界。クロス帝国とアイルス王国の長きに渡る戦争が続いていた。そこで育ての親のパウロ・アルマークを失ったヨシユア。だが、パウロを殺した犯人とヨシユアの間には、宿命とも言える関係があった。

ヨシユアは何を選択し、どう生きていくのか

あの時の事は昨日のことのように鮮明に思い出すことが出来る。ザアザア。雨が俺の回りに降り注いでいた。傘をささずにたっている俺を取り囲むように、そこにただひとつの孤独を作り出す。

視線を前に向けると、そこには簡素な棺桶があった。シルバーの十字架のペンダントが掛かっている。それは彼の物だ

そのペンダントを指で掬い、ギュツと握った。雨で冷たく冷えきっていた。ふと、雨が止んだ。黒い傘に引き込まれた俺の体はいとも簡単にその人に寄りかかる。

「パウロは、殺されたんだ…」

「そう、なんですか」

少し女にしては低い声が耳元で聞こえた。悲痛そうに眉を潜めた彼女は俺の返答にまた、眉を潜めた。恐らく悲しむか激昂するかだと思っただろう。だが、俺はそうしなかった。いや、出来なかった。

パウロが死んだということをまだ理解しようとしていない。受け入るのをひたすら拒否している自分に嫌気がさす。

彼女、エレミアさんは俺をゆっくり抱き締めた。幼い俺はされがままに彼女の腕の中に収まった

「ヨシユア。お前はパウロの息子だ」

「…違いますよ。エレミアさん。俺は親が居ない」

「お前の親はパウロだ。六つの時から誰がお前を育ててくれた？パウロだろう」

愛情を持って、アイツはお前を育てた。これを親と言わずなんという？

「…そう、だけど、俺は捨て子なんだ」

「そうだ。だが、六つのヨシユアに出会ったあの時、パウロは嬉しそうにあたしに『俺の息子だ』と紹介しただろう」

「……………パウロ」

呟いた言葉は空に消え、雨の音に掻き消された。もう一度彼の名前を呼ぶけど、欲しい返事が帰ってくることはもう無い。

エレミアさんがもう一度言った。

「ヨシユア・アルマーク。パウロ・アルマークを忘れようとするなよ」

辛いはずなのに、にっこりと笑ったエレミアさんの笑顔が、いやに鮮明だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7600/>

tune † cross

2010年10月9日21時54分発行